

果樹剪定

剪定時期

剪定は大きく冬期剪定（休眠剪定）と夏期剪定に分けられます。果樹では一般的に剪定といえば、冬期剪定をいいます。夏期剪定は、摘心や芽かきも含めた呼び方をします。

冬期剪定の時期は、晩秋から発芽までの間（11月～2月頃）。落葉果樹は葉が落ちれば剪定できます。常緑果樹の中でも、特に耐寒性の弱いものは、3月に入って寒さの心配がなくなってから行います。

剪定の早過ぎ、遅れは養分の損失などがおこるので注意しましょう。

剪定の目的

- 木を素直に育てる
- 作業をしやすくする
- 風害を少なくする
- 木の大きさを調整し制限する
- 枝、葉の混雑をさける
- 毎年良い実を平均的にらせる
- 管理をしやすくする

果樹種類と冬剪定

| 果樹種類 | 冬剪定の時期 |
|------|----------|
| カキ | 落葉～3月 |
| ウメ | 落葉～12月下旬 |
| クリ | 落葉～3月 |

枝の切り方

① 切り返し剪定

枝の途中（分岐点以外）で切る。

- 骨組みになる枝を作る場合。
 - 老齢枝（樹）の勢力を回復させたいとき。
- ※切り返し剪定ばかりだと樹が強くなりすぎ、果実がならないときがあります。

② 間引き剪定

枝の分岐の根元から切る。

- 樹を落ち着かせるとき。
- 枝に日光を多く当てたいとき。

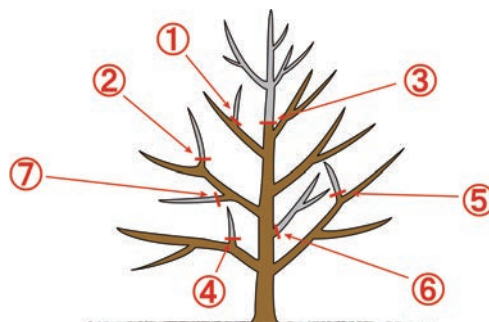
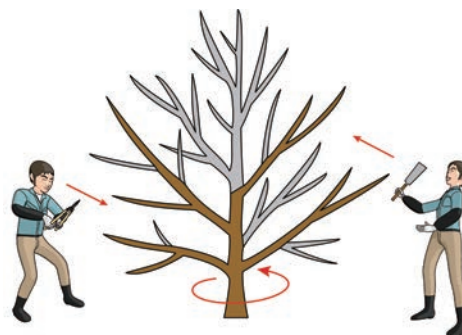
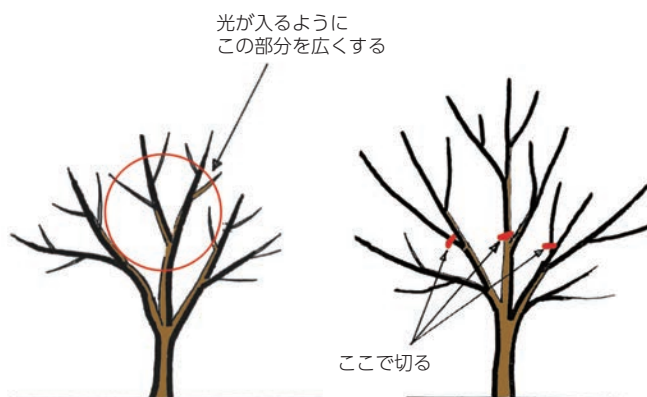
※間引き剪定ばかりだと樹が弱ってしまいます。

若い木の剪定では、骨組みになる枝以外は間引き剪定を主に。できるだけ弱い剪定を行って、早く木を大きくさせると共に花芽をつき易くさせます。

老齢枝（樹）には、やや強い切り返し剪定を行い刺激を与えてやると、発育枝の発生が促されます。

剪定のポイント

- まんべんなく日光が当たるように剪定していきます。
 - 太い枝は最小限に。
- 一目見て主枝、垂主枝がわかるように行いましょう。



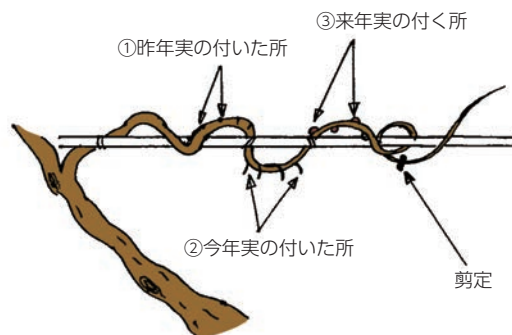
●キウイの剪定について

剪定時期

- 12月上旬～2月上旬（なるべく1月までに剪定を済ませる。）

剪定

- キウイは一度実が付いた場所からは発芽しないので、その場所（前回実が付いた枝）より先の芽（2～5芽）を残して切り戻す。
- 実が付いた部分の先が伸びていくので2～3年経ったら、枝は付け根から切り新たな枝を伸ばし、その枝に結実させる。
- 実が付かなかった枝は、先端を少し切り詰めるか、5～8芽残して切る。
- 先端がつる状になっていれば、つる状の部分の部分を切り戻し、混んだ枝は間引く。



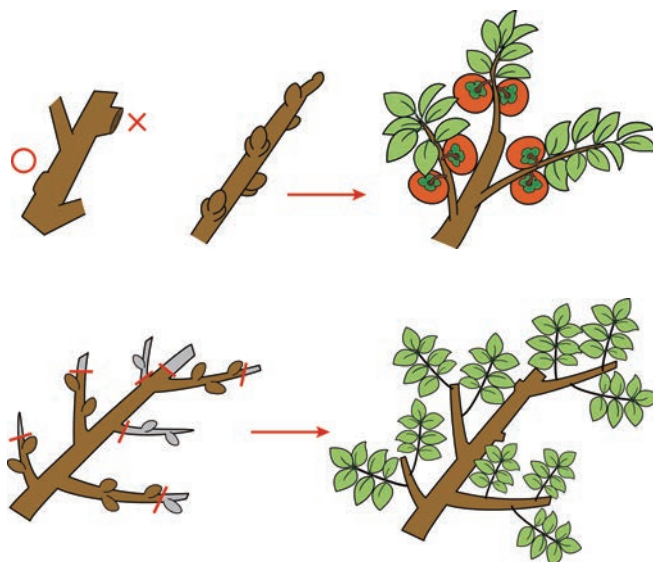
●カキの剪定について

剪定時期

- 12月～3月中旬

剪定

- カキはまっすぐ上に伸びようとする性質があり、一般的には3本仕立て（自然な形）にする。
- 主枝の本数は3本とし、カキの枝は中心から裂けやすいので主枝候補枝には、上に伸びた強い枝を選ぶ。
- 垂主枝は、1本の主枝上に2本仕立てにする。
- 側枝、実が付く枝の配置としては、主枝、垂主枝上の側枝はできるだけ重ならないように配置する。
- 実が付く枝は、太さや長さの揃ったよい形質のものを残す。



●クリの剪定について

剪定時期

- 12月～2月

剪定

- クリは高木になる傾向があり、日当たりが悪いと木が枯れやすいので枝と枝が重ならないようにする。
- 間引き剪定を行い、実のつく枝を確保するとともに、全体に日射しが行きわたるようにする。
- 年数の経った木にはやや強い切り返し剪定をする。
中心の幹を切り、2～3本仕立てにする。

